第６期　新宿区多文化共生まちづくり会議 第6回全体会 議事概要

日　時　　令和5年10月20日（金）15:00～17:00

場　所　　しんじゅく多文化共生プラザ

出席委員　小林委員、金委員、長谷部委員、毛受委員、ゼヤー委員、楊委員、安藤委員、李委員、
タイン委員、鈴木委員、立川委員、陳委員、ドゥラ委員、原田委員、佐々木委員、塚本委員、
山口委員　１７名

欠席委員　郭委員、申委員、チャン委員、松田委員、奥田委員、江副委員、ブサン委員、コチュ委員、
叔委員、朴委員、センブ委員、伊藤委員、井上委員、宗像委員、守重委員　１５名

１　開会

２　事務局からの説明

（１）多文化共生実態調査　中間報告

（２）第５回会議（7月26日開催）のご意見のまとめ

３　「多文化共生実態調査　中間報告」を踏まえた「地域における多文化共生意識の醸成」について意見交換

事務局からの説明をもとに、委員から意見をいただいた。

・外国人の調査回答「必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと」では、ＳＮＳやメール、ホームページが平成27年度の調査と比べて増えている。また、「日本語の勉強方法」でもインターネットの利用は倍増している。インターネットが大事であると強く感じた。

・一方、外国人の調査回答「外国人向けの情報で知っているもの」では、SNSや、インターネット動画のスタートガイドの回答が低い。認知度が課題である。

・外国人は高齢化しており、その配偶者の日本人も高齢化している。例えば、妻は日本語が分からなくて申請手続ができず、その夫は高齢でインターネットが使えなくて電子申請ができない。仕方なく、申請書類を郵便で送る事例がある。

・外国人の調査回答で、「つき合い」では「挨拶程度」が多く、「困りごと」では「友人が少ない」が多い。地域で何らかのつながりが欲しいと思っている外国人が一般的な姿と思う。

・一方で、日本人の調査回答では、「トラブル経験」で「特にない」が微増しており、外国人に慣れているんだと感じた。慣れているからこそ、外国人に対する偏見に遭遇している。このため、外国人に対する偏見があると感じる人が増えたという調査結果になったと解釈できる。

・日本人と外国人をつなげていくのが、新宿区が考えなければならないことである。

・日本人の調査回答「しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの」では、「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」が最も高いのに驚いている。日本人側が外国人コミュニティの存在を認識していて、接したいと思っている。

・日本人の調査回答「参加したいと思える交流会・イベント」では「盆踊りなど地域で開催されるお祭り」が２番目に多い。日本人の回答者に高齢者が多いため、盆踊りに来てほしいということが見えてくる。神奈川県の団地で交流会をやっており、外国の踊りとともに盆踊りも踊っている。盆踊りやクリスマス会などが参加しやすくてよいと思う。

・新宿区の10所の地域センターでは、地域センターまつりを開催している。外国人の方に参加していただけると非常に良いと思う。

・マンションの防災訓練や盆踊りのチラシを見ると、日本人でも分かりづらいものもあり、ましてや多言語対応の考えはないようである。自治会や町内会でも意識の醸成が必要だと感じた。

・国籍関係なく、若者をいかに活かして、力を発揮していただいて、例えば、災害時に近所のお年寄りを助けていただくということが大切と思っている。

・日本人と外国人の交流の機会を作り、さらに一歩進めていけたらいいと思う。

・自分たちでイベントを実施するときに、会場となる場所や公園を借りたいが、どこが窓口なのか相談したい。

・外国人が盆踊りや日本の料理を体験したくても、情報が入ってこない。たどりつけない。

・保育園や小学校に通う子供がいれば、様々なチラシが配られて情報は入りやすい。

・たくさんイベントをやっていても情報が届きにくい。新宿区のホームページに掲載されていても現状は難しい。

・外国人には、災害時に何をすればよいか分からない人が多い。大久保の高齢者ネットワーク会議で、警察や消防署の方が防災マップや災害時の対処法を紹介する機会があってよかった。

・外国人と日本人の関係だけでなく、世代とか関係してくると、全てにアプローチするのは難しいと思う。例えば、盆踊りの貼り紙があっても、いくら区のホームページに載っていても、イベントを探して見なければ情報は伝わらない。外国人だからでもないと思う。インターネットを見る人もいれば、一切見ない人もいる中で、どのように幅広く情報を届けるのか、考えることがいっぱいあると思う。

・外国人の調査回答「日本語で困った時どう対応していますか」では、「通訳・翻訳アプリの活用」が多い。これからは外国人と日本人とのコミュニケーションのうえでＩＴを使ったものが飛躍的に伸びてくると、もっと大きな交流の可能性が広がるだろうなという感じがする。

・全国の技能実習生が増えた地域では偏見が増えているという話も聞く。しかし、新宿区は、留学、永住者、技術での入国が多く、技能実習は少ないことから、非常に安定している関係にある。

・新宿区の課題は、留学生が３分の１で、定着率が悪いということ。新宿区に住み続けたい人は非常に多

いが、どんどん変わってしまうのが課題だと思う。住み続ければ行政が多文化共生を進めやすくなる。定住を促進するようなマインドを持つのも必要である。

・外国人の若者は、日本の文化やお祭りに参加しているのを、ＴｉｋＴｏｋやフェイスブックに載せて発信したい。新宿区のイベントをＴｉｋＴｏｋやフェイスブックに載せて発信するとよい。

・部屋を探すときに外国人差別を感じる。マンションやアパートを持っているのは年齢が高い方々で、考えを変えるのには時間がかかる。

・ドイツでは留学生の学費を補助する代わりに、５年間ドイツで仕事をして国に貢献する仕組みがある。新宿区でも留学生の定住化のために、区民税を調整するなどの特典があるとよい。新宿区は便利で住みたいけれど、家賃が高くて住めない。留学生を応援して、社会人になったら貢献してもらうとよい。

・外国人が家を借りるときの差別は、外国人のマナーが悪いから貸してくれないということ。差別をなくすためには、悪いマナーを無くして、外国人が自分たちの評価を自分たちで高くするしかない。

・外国人が永住になるまではビザ更新のためにいろいろな手続がある。地域の交流に参加している人にはポイントを与えるとか、ポイント制であればよいと思う。

・外国人が望んでいるのは、日本に長く住み続けたいということ。しかし、ビザの更新ができないから帰国することになってしまう。

・留学生を抱えている学校では、日本のルールやマナーを教えるのに苦労している。学校だけではなく、区や地域が手助けする仕組みをぜひ考えるとよいと感じた。

・韓国では社会統合プログラムがあって、それに参加したらビザの更新にプラスになる制度がある。

・例えば、外国人の起業家など、外国人と日本人との交流イベントの場をもっと設けることで、もっと交流できると思った。

４　その他

（１）外国人向け生活情報ホームページのリニューアル

（２）その他

５　閉会